

# 区政Now!(26年5月号)

## 新年度特大号

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

日頃から荒川区政に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。  
荒川区では、災害時において区民の皆さまの生命と財産を守るため、木造住宅密集地域の延焼防止の対策を積極的に推進しています。先日、このような取り組みと現状を視察するため、舛添要一東京都知事が、荒川区の木造住宅密集地域を訪問されました。本年3月には、隅田川の河川水を活用して災害時における継続した消火活動を支える永久水利施設が荒川遊園に完成し、その完成披露及び訓練を行いました。今後とも、「災害で一人の犠牲者も出さない安全安心の街づくり」を行うという強い決意のもと、一層の災害対策を進めてまいります。



また、荒川区が発起人代表となって設立しました「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(通称:幸せリーグ)」に関する書籍『「幸せリーグ」の挑戦』(三省堂)が4月28日に出版されました。「幸せリーグ」は、参加自治体同士が住民の幸福度の向上を目指した政策について学び、高めあうことにより誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築くことを目的としています。書籍の出版を通じて、幸せリーグの活動を全国に広げ、日本中で住民の幸福実感の向上を目指した取り組みが行われるよう、一層の取り組みを進めていきたいと考えております。

さらに、子どもの貧困対策や就労支援など、様々な分野における政策を進めていくことにより、「幸福実感都市あらかわ」の実現を図ってまいりますので、皆さまの一層の御理解と御協力をお願いいたします。

いじめいじめ

### ● 舛添要一・東京都知事が木造住宅密集地域に視察に来られました

◇ 4月16日、舛添要一・東京都知事が、都関係者と共に白鬚西地区市街地再開発事業の現場や、都が老朽住宅の取り壊しや建て替えの費用を支援する「不燃化特区」に指定された町屋周辺の木造住宅密集地域に視察に来られました。舛添都知事は、区担当者や地元住民、消防署長から説明を受けながら細い路地を見て回り、木造住宅密集地域への早急な対応が必要であるという認識を持っていただくことができました。

また22日には、不燃化特区の税制優遇措置についてご協力をいただいている影山竹夫・東京都主税局長も木造住宅密集地域の視察に来られました。



舛添・東京都知事の視察の様子

主な事業

● 荒川区初の永久水利施設の完成披露及び訓練を実施しました

◇ 荒川区では「災害でひとりの犠牲者も出さない安全安心の街づくり」の実現のため、隅田川に隣接する立地を活かし、あらかわ遊園内にある既存のポンプを増強して、永久水利施設の整備を進めてまいりました。

◇ 3月9日には、施設の完成披露及び、永久水利を活用した防災訓練を行いました。除幕式では、荒川区議会の志村博司議長と吉田詠子副議長、永久水利整備活用推進協議会座長の小出治東京大学教授に御出席いただきました。その後の訓練は、「大地震発生時に複数箇所で大規模な火災が発生したため、防火水槽が枯渇した」と想定し、消防関係、各防災区民組織、レスキュー隊など、200人を超える隊員が参加し、東京都や消防庁、各地域町会の方々、約300人が見守る中で行われました。



完成披露式典の様子



尾久消防署長との協定締結時の様子

◇ 4月22日には、第4回荒川区永久水利整備活用推進協議会を開催しました。協議会には、小出教授、国・東京都・警視庁・消防庁など専門機関の代表委員・各町会連合会会長に御出席いただき、永久水利施設の整備、尾久消防署と締結した永久水利の管理・運用に関する協定等を報告しました。

● 荒川区の実績が認められ、政府の「子どもの貧困対策に関する検討会」にオブザーバー参加することになりました

◇ 政府の「子ども貧困対策会議（会長＝安倍総理大臣）」において決定された『子どもの貧困対策を総合的に推進するための大綱』案の方針に基づき、「子どもの貧困対策に関する検討会」が設置され、荒川区・子育て支援部参事がオブザーバーとして選出されました。

◇ 宮本みち子氏（放送大学副学長）を座長とした構成員のうち、自治体からの就任は全国で2か所のみとなっており、大きな役割を担うことになります。

◇ 荒川区及び荒川区自治総合研究所では、平成21年度から、全国の自治体に先駆けて子どもの貧困問題に取り組んでおり、平成23年8月には、その調査研究結果及び政策提言をまとめた「子どもの貧困・社会排除問題研究プロジェクト最終報告書」を公表しています。

◇ 荒川区では、既にスクール・ソーシャルワーカーの配置や学習支援の充実など、子どもの貧困問題の解消に向けた具体的な取り組みを進めており、今回のオブザーバー参加はこれらの実績が評価されたものです。

◇ 子どもの未来が、生まれ育った環境によって左右されることなく、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、自治体の立場から国に対して提案を行い、子どもたちが夢と希望を持って成長できる社会の実現に向けて今後も引き続き尽力してまいります。

● 「マザーズハローワーク」と「わかものハローワーク」が日暮里駅前に設置されます

◇ 荒川区では、就労支援課を設置し、若年者、女性、高齢者に対する雇用確保に注力しております。この度、厚生労働省（東京労働局）が所管する専門ハローワーク「マザーズハローワーク」「わかものハローワーク」が、ハローワーク足立の附属施設として今年9月に日暮里駅前に新たに設置されることとなりました。「マザーズハローワーク」は渋谷区内の施設に続いて都内2カ所目、「わかものハローワーク」は都内3カ所目の施設で、都内東部エリアの拠点施設となります。

◇ 区では、今後とも、積極的に「マザーズハローワーク」「わかものハローワーク」との連携を進め、若年者や女性の一層の就労支援を図ってまいります。

● 『「幸せリーグ」の挑戦』が出版されました

◇ 平成25年6月に荒川区が発起人代表となって設立しました「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（通称：幸せリーグ）」に関する書籍『「幸せリーグ」の挑戦』（三省堂）が出版されました。



『「幸せリーグ」の挑戦』

◇ 幸せリーグは、住民の幸福の追求という共通の使命のもと、志を同じくする基礎自治体が相互に学び、高めあう

ことを通じて、真に住民本位の自治運営を実現し、誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築いていくことを目的として設立されました。

◇ 書籍では、幸せリーグの活動を全国に広げていくため、幸せリーグ設立の意義や、今後の展望、参加自治体の特色ある施策等を掲載しています。

◇ 幸せリーグ顧問である、神野直彦東京大学名誉教授、広井良典千葉大学教授、坂田一郎東京大学教授、原丈人アライアンス・フォーラム財団代表理事、小宮山宏東京大学前総長・三菱総合研究所理事長、月尾嘉男東京大学名誉教授からの寄稿を掲載しています。全国の書店で発売中です。



「幸せリーグ」設立総会の様子



● 第2回荒川区民総幸福度（GAH）推進リーダー会議を開催しました

◇ 平成26年3月27日（木）、サンパール荒川にて、第2回荒川区民総幸福度（GAH）推進リーダー会議を開催しました。

◇ 荒川区では、区民の皆様の幸福実感を測る指標を作成し、よりよい区政につなげていこうとする荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハピネス：GAH）の取組みを進めています。

◇ 当日は、荒川区の地域コミュニティを支えるリーダーとして様々な分野でご尽力いただき、その日々の活動を通じて荒川区民総幸福度

（GAH）の向上に取り組んでいただいているGAH推進リーダーの皆様に御参加いただきました。また、昨年10月に実施したGAHに関する区民アンケート調査の集計結果を基



意見交換の様子

に、健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、コミュニティ・文化、安全・安心の分野ごとに意見交換を行いました。

◇ 今後とも、GAH推進リーダーの皆様と連携・協力しながら、GAHの向上を目指した取組みを推進してまいります。



荒川区民総幸福度（GAH）  
推進リーダー会議の様子

● 第28回川の手荒川まつりを開催しました

◇ 4月29日（祝）、都立汐入公園及び周辺にて第28回川の手荒川まつり（同時開催：第35回商業祭）を開催しました。来場者数は72,000人と、本年もたくさんの方々にお越しいただきました。

◇ オープニングでは区内中学校の吹奏楽部による演奏やバトントワリングが行われ、会場は商業祭バザールや交流都市による特産品の販売、また和太鼓やダンスなど多くの楽しいステージプログラムをはじめ、各種イベントにより大変な賑わいを見せました。



イベントでにぎわう様子



開会のあいさつの様子